

2016年12月14日から27日まで、中国、ラオス、タイ及びミャンマーで駆け足の現地調査を行いました。

この調査は大メコン圏(GMS)構成国(ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー及び中国)を対象として、同僚(五島文雄教授)とともにここ数年、毎年行っているもので、今回の主要テーマは「中国・ラオス高速鉄道建設の今を見る!」でした。とは言うものの、建設の全体的構想や進捗状況がある程度イメージして現地入りしたものではありません。それは、昨年(2015年)12月2日にビエンチャン郊外で華々しく起工式が行われたものの、それ以降の関連報道が極めて少なく、しかも断片的だったからです。従って、「ひょっとしたら、何も見られないかも」との不安もありました。

こうした中で敢行された今回のラオス調査、結果的には非常に有意義なものでした。それは、2021年の全線完成を目指し、各建設予定地で小規模ながら着実な建設工事が行われていることを確認できたからです。さる12月25日、ルアンパバーンでラオス首相や同国駐在中国大使らが出席する式典が開催され、工事が本格化する旨宣言されました。現在の建設状況を「点」

とすると、これからは「線」を目指しての作業に移るのだと思われます。

ここでは、今回の調査旅行で確認できた中国・ラオス高速鉄道建設現場の写真をアップしてあります(<http://ir.u-shizuoka-ken.ac.jp/ksuwa/>)。残りの調査部分については、後日アップする予定です。

なお、最後になりましたが、今回の調査に同行して頂き、多くの貴重な示唆を与えて下さった山田紀彦・アジア経済研究所研究員に心からの謝意を表したいと思います。

ラオス
バ蒙(パケモン)の
子供達





该图由 萌叔 上传至 超级大本营军事论坛 CJDBY.NET 版权归原作者所有

地图 <http://lt.cjdbby.net/thread-2132109-1-1.html> より

ラオスでの高速鉄道関連調査は、12月16日から19日までの4日間行いました。ワンボックスカーを借り上げての陸路(主に国道13号線)移動です。

首都ビエンチャン(万象)を起点に北上し、バンビエン(万荣)、ルアンパバーン(琅勃拉邦)、パクモン、ウドムサイ、ナートウイを經由して、ラオス側国境の町ボーテン(磨丁)に入りました。その後、ナートウイに戻り、西に進路をとってルアンナムターで調査を終えました。